

都市再生整備計画

サンポート^{たかまつちく}高松地区

(第4回変更)

かがわ^か 香川県 たかまつし^し 高松市

令和7年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	☒
都市再生整備計画事業	☐
まちなかウォークアブル推進事業	☐

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)ー②

都道府県名	香川県	市町村名	たかまつし 高松市	地区名	サンポートたかまつ 高松地区	面積	42	ha							
計画期間	令和	4	年度	～	令和	8	年度	交付期間	令和	4	年度	～	令和	8	年度

目標
大目標：広域交流拠点として多様な都市機能の集積と高度化を推進し、賑わいの創出を図るサンポート高松地区において、香川県立アリーナ整備及びJR四国高松駅ビルや徳島文理大学（高松駅キャンパス）や外資系最高級ホテルの建設に合わせて、地区全体の魅力向上や交通結節機能の強化、回遊性向上を図ることで魅力的な地区づくりを実現する。 目標1：四季を通して快適に歩ける空間の創出による地区の回遊性向上 目標2：道路環境の整備による自動車交通の快適性向上
目標設定の根拠
都市全体の再編方針（都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用を考え方を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針） 本市では、依然として中心市街地の人口が減少傾向にあり、平成16年5月に線引きを廃止して以降、用途地域縁辺部において人口が増加し、低密度な市街地の拡散傾向が続いている。また、平成17年度の近隣町との合併以降も、人口は42万人を維持しているものの、今後、本格的な人口減少や少子・高齢化の進展が見込まれている。このような状況の中、本市では、平成28年3月に策定した第6次高松市総合計画において、目指すべき都市像として「活力にあふれ 創造性豊かな瀬戸の都・高松」を掲げており、また、都市づくりの分野においては、平成29年8月に、高松市都市計画マスタープランを改定し、将来の都市づくりの方向性を踏まえ、都市機能の集積と市街地の拡大抑制によるコンパクトな都市構造及び、人と環境にやさしい公共交通を基軸とした環境共生都市「多核連携・集約型環境配慮都市（多核連携型コンパクト・エコシティ）」の実現に向け取り組んでいる。
まちづくりの経緯及び現況 サンポート高松地区周辺は、高松市都市計画マスタープランにおいて、本市の「広域交流拠点」として、多様な都市機能の集積と高度化を推進し、にぎわい空間の創出を図ることとしている。 瀬戸内の島々の玄関口となるJR高松駅周辺は、陸、海、空の交通結節点となっており、近年、瀬戸内国際芸術祭の開催なども相まって、島々の観光資源への関心が高まったことを受け、外国人の宿泊者数が増加傾向にあるなど、観光結節拠点機能の役割も求められている。 また、香川県立アリーナの建設を始め、JR四国高松駅ビルの開発や徳島文理大学（高松駅キャンパス）や外資系最高級ホテルの建設が予定されており、人流はさらに増加することが予想され、中心市街地も含めた回遊性向上や公共交通機関の更なる結節機能強化、風光明媚な瀬戸内の景観を活かした整備により「人が集まりにぎわいのあふれるエリア」の実現を目指している。
課題 ・香川県立アリーナ開設に伴い、今後歩行者数の増が見込まれるため、これに対応した快適な歩行者空間の整備・充実が求められている。 ・サンポート高松では、日常から自動車交通の渋滞が発生しており、その対策が求められている。
将来ビジョン（中長期） ①第6次高松市総合計画（2016～2023）（平成27年度策定） ・「環瀬戸内海圏の中核都市としてふさわしいまち」をまちづくり目標に掲げ、コンパクトで魅力ある都市空間の形成を図るため、人口減少、少子・超高齢社会においても、活力を失わず、市民がいきいきと暮らせるコンパクトで持続可能な集約型都市の構築に向け、都市計画制度等の的確な運用により、適切な都市利用を推進するとともに、地域における拠点性の確保を図るなど、多核連携型コンパクト・エコシティの推進に努める。また、拠点性を発揮できる都市機能の充実を図るため、ウォーターフロントの魅力を活かしながら、サンポート高松などの中心市街地機能強化を図るとともに、中心市街地の活性化を図る。 ②高松市都市計画マスタープラン（2017～2028）（平成29年度改定） 高松市都市計画マスタープランにおいて、本市の広域交流拠点として多様な都市機能の集積と高度化を推進し、にぎわい空間の創出を図る地区として位置付けており、サンポート高松と中央商店街等の既存市街地の連携強化による都心機能強化、観光・レクリエーション施設の機能充実と、各施設・地域の連携強化による魅力の向上を図ることとしている。

都市構造再編集集中支援事業の計画							
都市機能配置の考え方 本地区は立地適正化計画において、環瀬戸内海圏の中核都市にふさわしい広域的な拠点性の強化と都市の魅力向上に向け、広域的な役割をもった都市機能の維持・誘導を図る広域都市機能誘導区域に位置付けるとともに、広域交流拠点として、商業・業務機能の拡充、にぎわい空間の創出、まちなか居住の推進及び交通機能の強化などにより、高次・複合型の都市機能の集積・更新を図ることとしている。							
都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等 —							
目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	
						目標値	目標年度
鉄道利用者数	人／年	年間の鉄道利用者数	周辺施設と連携した施設整備により、鉄道利用者の快適な歩行空間を創出することから、鉄道利用者の利用者数をもって評価する。	1,029.0万人／年	令和2年度	1,054.4万人／年	令和9年度
サンポート高松地区の主要施設の来訪者数	人／年	年間のサンポート高松地区の主要施設の来訪者数	周辺施設と連携した施設整備により、施設利用者の快適な歩行空間を創出することから、地区内主要施設の利用者数をもって評価する。	130.1万人／年	令和2年度	490.1万人／年	令和9年度

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
【四季を通して快適に歩ける空間の創出による地区の回遊性向上】 ・周辺施設と連携した施設整備により、安心・安全で快適な歩行空間を創出する。	【基幹事業】 地域生活基盤施設：人工地盤等整備事業（デッキ、キャノピー、アーケード、エレベータ、エレベータ改修、エスカレータ、情報板） 道路：市道高松駅北線整備事業、市道浜ノ町錦町線整備事業 【関連事業】 新県立体育館（香川県立アリーナ）整備事業 高松駅ビル開発事業 徳島文理大学建設事業 外資系最高級ホテル建設事業 【提案事業】 事業活用調査・道路整備を検討するための社会実験
【道路環境の整備による自動車交通の快適性向上】 ・交差点改良により道路環境を整備し、快適な自動車走行空間を整備する。	【基幹事業】 道路：市道高松駅北線整備事業 【関連事業】 新県立体育館（香川県立アリーナ）整備事業 高松駅ビル開発事業 徳島文理大学建設事業 外資系最高級ホテル建設事業

その他

【官民連携まちなか再生推進事業について】

- ◆方針1 官民の多様な人材がサポートエリアについて、議論する”エリアプラットフォームの構築”
- サポート高松地区の課題を共有化し、その解決を図る合意形成の枠組みを構築する。

◆方針2 将来像が共有された”未来ビジョンの策定”

- 未来ビジョンの検討過程において、琴電連立事業が中止になっている状況を踏まえ、琴電連立の都市計画を廃止した場合の”まちの将来像”を検討する。

(サポート高松地区の現状における課題)

様式(1)-④-1

(金額の単位は百万円)

...A

...B

0

サンポート高松地区(香川県高松市) 整備方針概要図(都市構造再編集集中支援事業)

目標	大目標:広域交流拠点として多様な都市機能の集積と高度化を推進し、賑わいの創出を図るサンポート高松地区において、新県立体育館整備及びJR四国高松駅ビルや徳島文理大学(高松駅キャンパス)の建設に合わせて、地区全体の魅力向上や交通結節機能の強化、回遊性向上を図ることで魅力的な地区づくりを実現する。 目標1:四季を通して快適に歩ける空間の創出による地区の回遊性向上 目標2:道路環境の整備による自動車交通の快適性向上	代表的な指標	鉄道利用者数 (人/年)	1,029.0万(人/年) (R2年度) → 1,054.4万(人/年) (R9年度)
			サンポート高松地区の主要施設の来訪者数 (人/年)	130.1万(人/年) (R2年度) → 490.1万(人/年) (R9年度)
			()	(年度) → (年度)

